

# 産業都市發達と可動橋の現代性

## — 其の價値益々重要視さる —

山本卯太郎

今や世を擧げて産業の合理化能率の増進を叫ばれるに至れるも、要は多量の物資を低廉迅速に產出せんとするもので、是が遂行に對しては可及的冗費を節約して最小の勞銀と時間との許に、最大の製產を成すにあるのは今更言ふ迄もない事であるが、本邦の産業大都市に於て右の條件に添ふべく構成されてゐるものは皆無と云つて差支へない。

今假に大阪市の地圖を見るに、幾多の放射線狀の路線及東西南北の縱貫路線はあるけれど、近時長足の發達を遂げたる市内安治川の兩岸尻無川の兩岸併に木津川の兩岸を結ぶべき、大阪市の循環路線と云ふべきものは一本もなく、是れが爲めに櫻島と天保山は僅か五百呎の對岸にありながら實に約二里を迂廻して初めて目的の彼岸に到達するの現狀である。只此處に渡船はあるが而も此の渡船は水上を上下する大小無數の交通物の間を縦ひて對岸に行くので、彼の戸畠若松間渡船の如き椿事を惹起する事絶無とは保し難いので何れより見るも可動橋架設の必要が痛感せらるゝ譯である。

今日世界に於て可動橋の最も發達せるは北米シカゴ市である。シカゴ市ではシカゴ河巾三百呎の運河上に架せられし、ニューヨークセントラル鐵道とペンシルバニア鐵道、シカゴミルウォーキセントポール鐵道とイリノイセントラル鐵道と對交してグレートナーザーン鐵道サウザーンパシフィン鐵道等を程よし此の可動橋により連絡を探つて居るのみならず、其の他ノースシカゴとウェストシカゴとの連絡には、今や百數十箇所の大小可動橋により、六千噸級のミシガン航路船舶の交通に便し併せて四百萬市民の交通に便してゐる

然るに大阪市は船舶の荷役は固定橋の爲に阻まれ、一度は船に取り數多の固定橋下を潜つて目的地に送られるので、多大の冗費と動力と時間を空費してゐる現狀で、且つ對岸に達せんとするには、數十倍の時間と労力を費さなければ危険なる渡船によるの外なく、是れが爲めには電車の乗客も何回となく乗り換へるためラッシュアワーの混雜は益々甚だしくなるので、今日の急務としては、一日も早く循環線路を建設して木津川尻無川安治川には、それぞれ可動橋を架設して客貨の集散に便すれば、一面貨物の荷作を傷めず、漏出する事なく、又破損する事なく、數度の積み換へに要する冗費と時間を節約して、安全且つ迅速にそれぞれ目的地に到達し得らるゝのである。又一面には歩行者に數十倍の距離を迂廻せしめずしてスピード時代に添ふ如く、可動橋を架設するは産業都市としての施設を具備し眞に産業合理化を達成する所以もある。

尙大阪市には砲兵工廠の存在するが故に、一旦緩急のある場合には、近海航路の船舶を天満橋上流に横付けして、數多の大砲を搬出するに便せん事は國防の見地より見るも一日も緩にすべき事ではない。彼の日露戰役二〇三高地の總攻撃に際し、山良の要塞にありし大砲を運びしが如きは、大阪砲兵工廠の大砲の搬出には時日を要し間に合はなかつた事實を物語るものに他ならぬ。茲に於てか日本に於ても英米に於けるが如く低水位河川法案を設定せしめ、一旦有事の際には運河又は船舶航行の水路上の橋は其の一徑間を可動式とすべく、可動橋の架設を必要とする譯である。

(49頁へつづく)